

「もみの木」

Granen

Jean Sibelius

1914

Fem stycken för piano

Op.75-5



森の国フィンランドの作曲家、シベリウスに『樹の組曲』というピアノ曲があります。その中の一つ、「もみの木」はとても美しい曲です。

この「もみの木」の元の曲名は、スウェーデン語で「Granen」と言います。でもこれはもみの木ではなく、トウヒという木のことです。英語の題名も「The spruce」で、意味は同じくトウヒ。

しかし、フランス語では「Le sapin」でこれは日本と同じ、もみの木。おやおや、同じ曲なのにどうして題名が二種類の樹木になってしまったのでしょうか。

実は、クリスマスツリーといえば日本ではモミですが、サンタクロースの出身地である北欧や、イギリスでは寒すぎてモミは育たずに

トウヒという木が一般的なのです。逆に暖かいところではモミが主流です。

この季節、世界中で同じように見えるクリスマスツリーですが、実はその土地の気候によって、違う樹木だったのですね。

どちらも一年中、葉が茂っていることから「永遠の命」の象徴とされます。

モミやトウヒはマツ科の植物ですが、クリスマスツリーのリースには

イトスギやサワラのように、葉が柔らかいヒノキ科の樹木も使われます。

針葉樹の香りであふれるこの季節は、とても幸せな気持ちになりますね。

森の空気を運んでくれるクリスマスツリーの樹木たちは、どこか懐かしい香り。

静かな冬に、私たちの心を優しく包み込んでくれます。

(「もみの木」 ジャン・シベリウス 5つのピアノ小品『樹の組曲』より)

花物語

比田井宗玉

五

